

# 更なる高みへ

理事長予定者 渡邊 和浩

## 【はじめに】

1974年にこの地で青年会議所運動が起こり、多くの先人達、行政の皆様、市民の皆様の御指導、御協力を頂戴いたしまして45周年を迎える運びとなりました。昭和29年に市制が施かれてから人口は横ばいの状態が続き、市東部には工業団地の開発が進み、交通の要所として東北縦貫道のインターチェンジが開設されました。これから未来の発展を約束された当時から私達の生活はどのように変化してきたのでしょうか。確かに生活は豊かになったのかもしれませんが。まだ生まれていない我々には先人達から聞く事でしか知る術を持ってないが、実際にはその豊かさを実感しています。ただ生活が豊かになったという事だけでしょうか。何か大切なモノを失くしてはいないでしょうか。今の現代社会はこのままでいいのかと考える事が多くなってきました。生活の豊かさと心の豊かさが比例せずに、反比例となっているのではないだろうか。それは自分だけが苦勞しなければ良いという利己的な価値観から始まり、SNS等での別次元で興味がある内容だけで構築されたコミュニティに依存してしまい、近隣住民と行動を共にする必要がなく殻に閉じこもってしまう人が急増したという地域コミュニティの問題から生じているのだと考えます。

我々、一般社団法人加須青年会議所はそれぞれの時代に生きる青年として、その時代の問題を直視し、日々研鑽し、解決しようと正面から若人の行動力で運動を展開してまいりました。先輩諸兄弟から創始の精神を持った青年としての英知、困難を恐れずに踏み出す勇氣、まちを思う情熱、年度は替われどこの想いは不変とし継承してまいりました。45周年の節目においても我々はまちの問題を検証し、未来を見据えた運動展開を考え、我々が先頭に立ち、この加須市を更なる高みへと導いてまいります。

## 【未来へ向けて】

地域コミュニティの活性化を行動の原動力とし、何がこのまちに足りないか問題を的確に捉え、全ての人々が共創しあう絆溢れる明るい未来の為に机上の空論だけでなく、若人の足を使った行動力でこのまちの為、地域住民の為に情熱を傾けて実践し行動する。青年会議所という団体が持つ行動力、人と人を繋ぐ連携力を生かし、日々運動を展開していかなければなりません。

このまちに住む人々にひとの温かさに触れ、他人に対しておもいやりの気持ちを抱ける

ような機会を創り、参加していただくことにより無関心層と呼ばれる方々を一人でも減らせるよう発信をしてゆきます。そして多くの子供達、現在コミュニティを支えている方達との架け橋となることにより、自助と共助の大切さを一人でも多くの方に理解していただき、利他の精神で溢れる輝かしい未来に向けた事業を行う事を約束いたします。

中間期における役割として 40 周年に我々が策定し、日々実践してきた活動指針と 45 周年までの動きを振り返り、検証し、これまでの運動の是非を精査することが必要であります。それらを踏まえた上で 45 周年記念式典を行い、皆様の前で 50 周年までの未来に向けた不退転の決意表明をさせていただきます。そして 45 周年という節目にメンバー、このまちに住む皆様の拠り所となるべく温かい場所、機会をつくることによりシンボルを心中に定め、心の定礎とし、未来に向けて動き出せる活力となるべく運動を展開いたします。

卒業式においては現在 3 名のメンバーが卒業予定者となっております。その卒業生達の軌跡から経験、苦楽、想いを現役メンバーは感じ取り、これからの運動への情熱となりメンバー間で Jaycee は脈々と受け継がれてゆきます。卒業生は JC を卒業してからの人生の為、現役メンバーは卒業生がいなくなってしまう為にお互いの未来へのスタートとして最高の舞台をメンバー全員で創り上げます。

「夢なき者に理想なし、理想なき者に計画なし、計画なき者に実行なし、実行なき者に成功なし。故に夢なき者に成功なし。」 吉田松陰

#### 【同志を求め続ける】

現役のメンバー数が現在 10 名となり一般社団法人加須青年会議所の存続すら危ぶまれる状況となりました。ここ何年にも渡り、会員拡大を重要課題とし、同志を求めて行動してまいりましたが成果は生まれず、メンバー数を減少させております。人数が全てではありませんが数が増える事により、事業規模、対象人数が多くなることも事実であります。私は 35 周年の時に入会させていただき、当時は 30 名を超えており、発信する人数が多ければ推進力が強くなる事も理解しております。我々と夢を語り、理想を描き、汗と涙を共に流し、明るい豊かな社会を実現できる同志を今年度も探し求めてまいります。電子機器だけではなく、直接足を運び、顔と顔を合わせ、皆様から青年会議所なら同志を託していただけるように会員拡大をメンバー全員で行ってまいります。

「一日一字を記さば一年にして三百六十字を得、一夜一時を怠らば、百歳の間三万六千時を失う。」 吉田松陰

#### 【結びに】

目まぐるしく変化する社会情勢の中、様々な電子機器からも情報を得る事ができるようになり価値観も多様化した現代社会において我々は社会から目を背けてはいないでしょう

か。生まれ育ったこのまちから目を離してはいないでしょうか。ひとは一人では生きていくことができない。このまちで生まれ育ち、今こうして過ごせているのは誰かが見守ってくれていたからであります。人との繋がりから今の自分があることを忘れてはいけません。

まずは自分をじっくりと見つめ直してはみませんか。自分という存在を認め、過去を反省し、未来へと歩みを進めていきましょう。恥ずべく事で後悔をして歩みを止めるのではなく、後悔を経験とし、己の武器として化して胸を張って進みましょう。そして今、自分が住んでいるコミュニティ、まちと向かい合おう。戦後、焼野原となった過去から経済大国と呼ばれる現在へと成長させた気概、特有の文化であるおもてなしという利他の精神を持つ日本人なのだから。

この一般社団法人加須青年会議所、我々が住む加須市を更なる高みへと引き上げる為にまずはメンバーから動き出そう。

#### 〈基本方針〉

- ・ひとを大切にし、ひとの為に動き、ひとの為に苦労し、ひとの為に泣ける存在となる。
- ・悔いるよりも直ちに決意し、動きを始める。
- ・まちのことを考え、今何が必要なことかを見極め実行に移す。
- ・否定だけで終わらせずに自分の考え、訂正箇所などを相手に伝え効果的な会議を行う。
- ・一般社団法人加須青年会議所を多くの人達に理解していただくように努める。
- ・めぐりあえた仲間と一生付き合える絆を築く。